

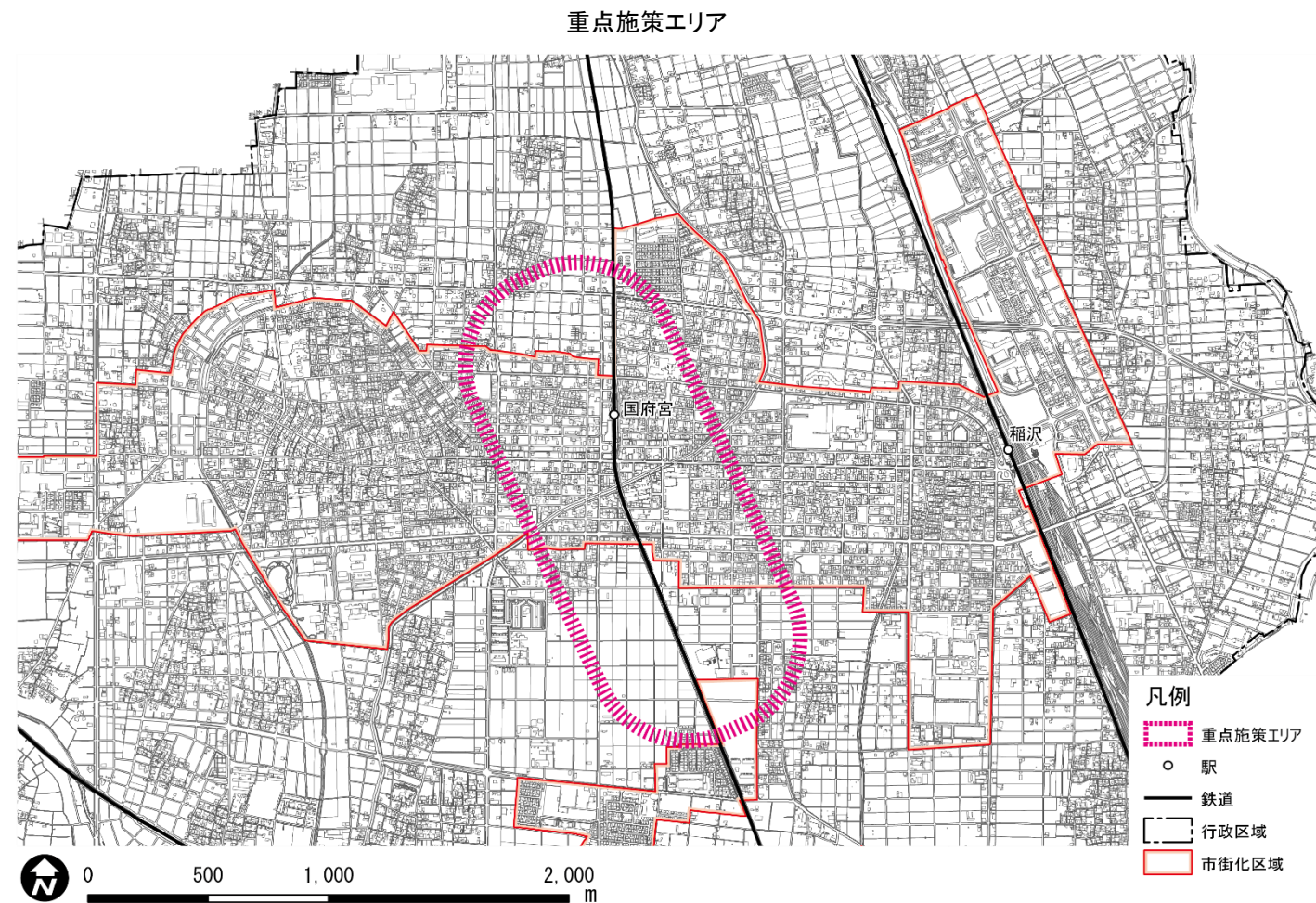
第6章 重点施策

1. 重点施策エリアの設定

本市は、名古屋駅からの鉄道アクセス 10 分圏内である地理的優位性を生かして、名鉄国府宮駅及び J R 稲沢駅周辺を都市拠点に位置付け、まちなか居住を誘導することで効率的な都市運営の実現を目指します。居住した人たちが快適で便利な生活を感じられるよう多様な都市機能を誘導し、集積することで市街地のにぎわいと活力をもたらす場となるようにしなければなりません。

J R 稲沢駅周辺においては、土地区画整理事業によるインフラ整備により土地利用が進み、下津地域では人口が著しく増加しました。今後も J R 稲沢駅の交通利便性を生かして、国府地区における住居系の新たな市街地整備を図っていきますが、投資による一定の効果が現れ、J R 稲沢駅周辺の開発は一段落しました。

一方で、名鉄国府宮駅周辺については、過去に土地区画整理事業が実施されたものの、現在も十分な土地の高度利用が進んでおらず、交通利便性に恵まれたポテンシャルを十分に生かしきれていません。今後は、都市中心拠点にふさわしいまちづくりを進める地域として、各種の取り組みが連動し、一体となった厚みのある市街地整備を進めるべく、名鉄国府宮駅周辺を重点施策エリアと設定します。

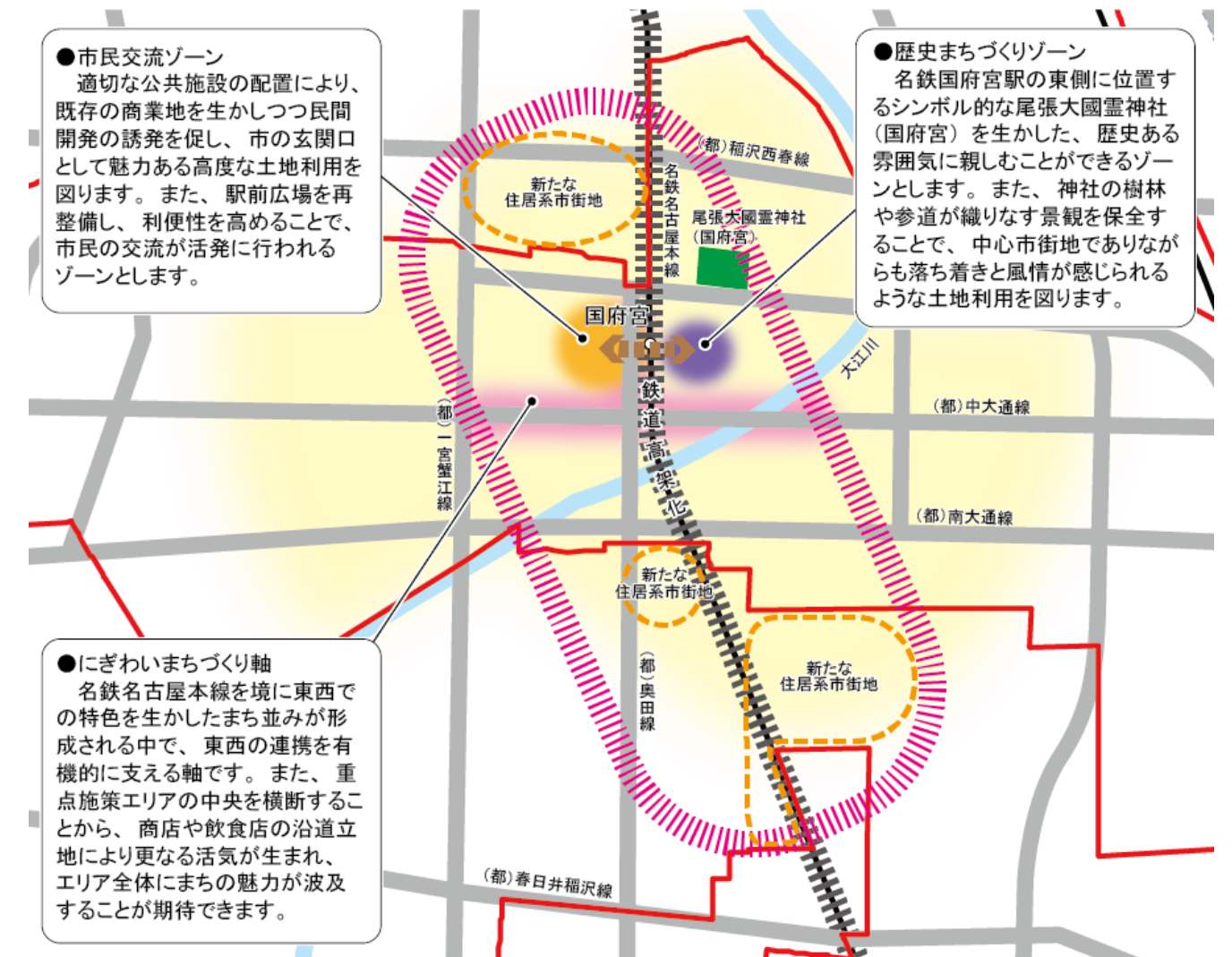


2. 基本的考え方

重点施策エリアにおいては、都市機能が集積し、複数の幹線道路が横断しているものの、名鉄名古屋本線によりまちが東西に分断されています。そのため、踏切による交通の危険性や慢性的な渋滞を招いているだけでなく、東西の市街地間の連携ができず、効果的で高度な土地利用も進まない状況となっています。また、都市機能を支えるまちなか居住の人口を確保することが重要ですが、まとまった住宅地も乏しいことから、宅地供給に繋がる基盤整備が必要となっております。

そこで、名鉄名古屋本線の高架化実現に向けた取り組みにより東西のまちの一体感を醸成し、民間開発を誘発するような名鉄国府宮駅周辺の再整備を行います。あわせて、新たな転入者を呼び込む市街地整備により都市機能の強化を図ることで、都市中心拠点にふさわしい一体的な市街地の形成に取り組みます。

重点施策エリアにおけるまちづくりイメージ



3. 主な取り組み方針

重点施策エリアにおける将来のあるべき姿のイメージを見据えたうえで、基本的考え方のもと、今後の主な取り組み方針を掲げます。

■ 市街地再整備の推進

名鉄国府宮駅周辺の活性化の礎となる再整備事業を推進します。鉄道高架事業の実現化を見据えて、必要な道路や公共空地の整備に加えてバリアフリー化に努め、公共施設と商業施設が融合した複合施設の立地を推進します。

■ 交通結節機能の強化

市民をはじめ多くの人々が利用する名鉄国府宮駅の交通結節機能を強化するため、マイカーだけでなく、タクシーやバスも利用しやすい駅前広場となるよう拡充を推進します。

また、鉄道利用者のアクセスに対応するため、パークアンドライドを推進する公共駐車場や自転車駐車場の整備について検討を進めます。

■ 新たな住居系市街地の整備

居住ニーズの高い駅近において、防災に配慮した住居系市街地の整備を推進します。

稲島東地区及び高御堂南地区では、交通利便性の良さを最大限生かし、住宅やマンションを中心としながらも、日常生活に身近な店舗を誘導する土地利用を図っていきます。

正明寺地区は、名鉄国府宮駅だけでなく「文化の丘」（市民会館、図書館及び市民病院）にも至近な地区です。このことから、住宅地の供給を中心としながらも、「文化の丘」を訪れる人のニーズに応える都市機能サービスについて検討し、南北に広がる市街化区域のまち並みと調和が取れた土地利用を図っていきます。

また、鉄道高架事業の実現化を見据えた用地の確保に努めます。

■ 名鉄名古屋本線の高架化

都市としてのスケール向上と市街地の一体化を進めるため、鉄道事業者などの関係機関と調整しながら名鉄名古屋本線の高架化実現に向けた取り組みを進めます。また、都市計画道路をはじめとする道路と踏切との交差形態について検討を進めます。